

評価委員 小川美佐子委員 則武一光委員 角山良敬委員 松本昌之委員

評価時期 令和6年2月

1 重点目標の評価

- 保護者アンケート・教員の評価ともに、全体的に昨年度よりも改善傾向にあると伺い、うれしく感じた。参観等の機会が増加し、教育活動の様子がより見えやすくなったことも理由の一つであると思われる。
- 保護者アンケートは、概ね母親からの内容であると思われるが、父親からの内容をとることができれば、また違った傾向が見られるのではないか。男親ならではの見方・考え方を踏まえたり取り入れたりしていくことも大切になるのではないか。
- A、Bの高評価における内容について、教員の評価でBの評価の方が多いことの背景には、改善の余地が相応にあることを内包していることの表れであると伺い、共感した。一方、C評価をつけるとなると勇気のいる内容にもなるのではないか。BとCとの間にある見えにくい内容を細かく読みとり分析できるようになることで、より精度が高まる評価になると思われる。

2 今後の改善に向けた意見

- 昨年度より保護者アンケートが紙媒体より電子化に変更する形となり、回収率の低下が課題の一つとなっている中、幼稚園は90%以上の高回収率であった背景には、降園時の小まめな声かけ等の取組もあってのことと伺った。幼稚園は、日々保護者と登降園時に顔を会わすことができる良さがあるため、その良さを生かす取組を今後も工夫していただきたい。
- 本校園には、PTAとは独立した組織として「おやじの会」があり、20周年を迎える。現在、コロナ禍も相まって各種イベント等を行うも、入会者や参加者が少ないことが課題である。設立当初の時期は、校園長も含め賑わいのある中で多くの対話ができていたことがあり、保護者からの信頼感につながっていた部分もあったのではないか。各所におけるコミュニティ力の低下が叫ばれている昨今だからこそ、本会が果たす役割の大きさを改めて考えることが必要になるのではないか。

3 その他の意見

- 幼稚園のホームページを拝見した。トップページにその日を象徴する子どもたちの姿が温かいコメントとともに掲載されており、素晴らしい取組であると感じている。日々の更新作業はさぞかし大変かと推察しているが、是非継続していただきたい。